

(共同リリース)

2026年4月22日
東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社
佐渡汽船株式会社
日本航空株式会社 新潟支店

陸・海・空の交通事業者 3 社が今年も棚田応援団として連携 2026年の棚田保全活動(田植え)実施について ～人と生きものの共生を目指す佐渡島、トキも人も健やかに暮らせる土地に～

東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社(執行役員新潟支社長 白山弘子)と佐渡汽船株式会社(代表取締役社長 尾渡英生)、日本航空株式会社 新潟支店(支店長 安田美智子)の交通事業者3社は、新潟県が後継者不足に悩む棚田の保全と維持管理に取り組んでいる「棚田みらい応援団」の活動に2026年も参加します。



佐渡市歌見(うたみ)地区(「つなぐ棚田遺産」(*1))での棚田保全活動は、今年で3年目を迎えます。この活動の大きな特徴は、佐渡の民話「鬼の田植え」にちなみ、参加者が鬼の角や衣装を身にまとって田植えを行う姿は、単なる農作業の枠を超え、笑顔あふれる交流の場として、関係人口の創出や地域活性化に大きく寄与しています。この活動は、おいしい米作りだけでなく、美しい景観を守り、森林の環境保全活動に貢献し、地域の暮らしを災害から守ることに役立っています。棚田は、山間地特有の寒暖差や清水を活かして良質なお米をつくり、やすらぎのある美しい景観を形成するだけでなく、土地の傾斜や貯水機能により、洪水や地すべりなど、下流域に影響を及ぼす災害を未然に防止します。また、棚田に生息する生き物の生態系維持につながり、森林などの環境保全・国土保全の観点でも大きな役割を担っており、SDGs の取り組みによる、棚田地域の営農活動・地域活性化を支援しています。

「佐渡島の金山」がユネスコ世界文化遺産に登録され、金山とともに歩んできた棚田の価値にも改めて注目が集まっています。3社は、こうした歴史と自然が織りなす佐渡の魅力をも未来へつなぐため、地域の皆さまと協働しながら2026年も持続可能な地域づくりと関係人口の創出に貢献してまいります。

【「棚田みらい応援団」活動概要】

場 所：新潟県佐渡市歌見地区 (「つなぐ棚田遺産」認定棚田 No. 60)

作業内容：棚田の田植え

作業日時：2026年5月10日(日) 9時40分～12時頃まで

参加団体：東日本旅客鉄道 新潟支社、佐渡汽船、日本航空 新潟支店 他



(*1)棚田地域の振興に関する取り組みを積極的に評価し、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対する理解を得ることを目的として、優良な棚田を認定する農林水産省の取り組み。現在、新潟県内の棚田は農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に8市町36地区が選定され、地域の文化と景観を象徴する存在となっています。